

## スポーツウエルネス学学位プログラム（博士前期課程）

Master's Program in Sport and Wellness Promotion

- 修士（スポーツウエルネス学）
- Master of Sport and Wellness Promotion

## 人材養成目的 / Program Educational Objectives

スポーツウエルネスの推進に携わってきた実務経験を基盤として、両者の相乗的な推進効果を生み出す理念と方法を理解し、そのための基本政策や戦略を企画・立案・分析する能力、必要な資源を査定しシステム化する能力、高度なシステムを適切にマネジメントする能力、合理的なプログラムを開発する能力等を有した実践的な高度専門職業人、地域・社会の発展や課題解決に貢献できるマネジメント人材を養成する。

<b>養成する人材像</b>	スポーツ団体、行政、企業等の専門家集団の中でリーダーシップを発揮しスポーツウエルネスの一層の発展に寄与する人材
<b>修了後の進路</b>	競技団体、国立センター、地方自治体、教員、スポーツ・ウエルネス関連企業、博士後期課程への進学等

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学大学院学則及び関係規則に規定する博士前期課程の修了の要件を充足したうえで、次の知識・能力を有すると認められた者に、修士（スポーツウエルネス学）の学位を授与する。

	コンピテンス	評価の観点	対応する主な学修
知識・能力	1. 知の活用力：高度な知識を社会に役立てる能力	①研究等を通じて知を社会に役立てた（または役立てようとしている）か ②幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか	スポーツウエルネス学概論、スポーツウエルネス学方法論、スポーツヘルスプロモーション研究方法論Ⅰ・Ⅱ、スポーツ・プロモーション研究方法論Ⅳ、ヘルス・プロモーション研究方法論Ⅳ、研究デザイン方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ、スポーツウエルネス医科学、実践的都市データ&医療介護データ活用論、修士論文（特定課題研究報告書）作成、学会発表など
	2. マネジメント能力：広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	①大きな課題に対して計画的に対応することができるか ②複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか	スポーツシステムマネジメント論特講、スポーツシステムマネジメント論演習1、スポーツシステムマネジメント論演習2、スポーツウエルネス起業法、エビデンスベースのハイパフォーマンス支援策、スポーツ価値創造論、ウエルネスマーケティング、外部コンテスト等への参加など
	3. コミュニケーション能力：専門知識を的確に分かりやすく伝える能力	①研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ②研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか	スポーツウエルネス学概論、スポーツウエルネス学方法論、スポーツヘルスプロモーション研究方法論Ⅰ・Ⅱ、スポーツシステムマネジメント論演習1、スポーツシステムマネジメント論演習2、研究デザイン演習、スポーツシステムマネジメント論実習、課題解決型実習Ⅰ・Ⅱ、スポーツウエルネスビジネスに関わる法務・会計・ファイナンス、スポーツウエルネスにおける生成AI活用法、スポーツビジネス開発論、学会発表など

	コンピテンス	評価の観点	対応する主な学修
知識・能力	4. チームワーク力：チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	①チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ②自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか	スポーツウエルネス学方法論、スポーツシステムマネジメント論演習1、スポーツシステムマネジメント論演習2、スポーツシステムマネジメント論実習、スポーツ価値創造論、スポーツウエルネスビジネスに関わる法務・会計・ファイナンス、スポーツビジネス開発論、学会での質問、セミナーでの質問など
	5. 国際性：国際社会に貢献する意識	①国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ②国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか	スポーツシステムマネジメント論特講、トップスポーツ論特講、健康開発プログラム論特講、コミュニティメンタルヘルス論特講、スポーツウエルネス起業法、エビデンスベースのハイパフォーマンス支援策、スポーツウエルネスにおける生成AI活用法、国外での活動経験、留学生との交流など
	6. 研究力：スポーツウエルネス分野における研究課題設定と研究計画を遂行するための基礎的な知識と能力	①スポーツウエルネス分野に関する社会的課題について、科学的探究心、論理的思考力、俯瞰力をもって精査することができるか ②スポーツウエルネス分野に関する社会的課題の解決に向けた適切な研究計画を立案、作成ができるか ③スポーツウエルネス分野に関する適切な修士論文を完成させ、発表することができるか	スポーツヘルスプロモーション研究方法論I・II、スポーツ・プロモーション研究方法論IV、研究デザイン方法論I・II・IV スポーツシステムマネジメント論特講、スポーツシステムマネジメント論演習1、2、研究デザイン演習、スポーツウエルネス医科学、実践的都市データ&医療介護データ活用論、エビデンスベースのハイパフォーマンス支援策、学会発表、修士論文（特定課題研究報告書）作成など
	7. 専門知識：スポーツウエルネス分野における高度な専門知識と運用能力	スポーツウエルネス分野における高度な専門知識を修得し、課題解決にむけた企画・開発をすることができるか	スポーツウエルネス学概論、スポーツウエルネス学方法論、スポーツシステムマネジメント論特講、スポーツシステムマネジメント論演習1、2、課題解決型実習I・II、スポーツウエルネスにおける生成AI活用法、エビデンスベースのハイパフォーマンス支援策、関連領域の学会や研修会への参加など

	コンピテンス	評価の観点	対応する主な学修
<b>知識・能力</b>	8. 倫理観：スポーツウエルネス分野の基礎的研究能力を有する人材または高度専門職業人にふさわしい倫理観と倫理的知識	スポーツウエルネス分野の基礎的研究能力、倫理観、倫理的知識を修得しているか	スポーツウエルネス学概論、スポーツウエルネス学方法論、スポーツシステムマネジメント論特講、スポーツシステムマネジメント論演習1、2、スポーツウエルネス医科学、実践的都市データ& 医療介護データ活用論、スポーツビジネス開発論、倫理講習会受講、APRIN など倫理関連の e-learning 受講など
<b>学修成果の評価に関する方針</b>	<p>学修成果の評価は「達成度評価表」に基づく達成度評価によって、以下の段階毎に学位授与の方針に基づくコンピテンスの修得状況を客観的に確認し評価する。達成度評価の段階・方法を以下に示す。</p> <p>第1段階（1年次秋学期）： 1年次中間発表会を経て、指導教員がルーブリックに基づき第1段階達成度審査を行う。</p> <p>最終段階（2年次秋学期）： - 2年次中間発表会を経て、研究指導担当教員がルーブリックに基づき第2段階達成度審査を行う。 - その後、主査および副査2名以上で構成される学位論文審査委員会においてルーブリックに基づく審査を実施し、教育会議において全教員による最終達成度審査を行う。</p>		
<b>学位論文に関する評価の基準</b>	<p>本学位プログラムでは、修士論文と特定課題研究報告書の二つを、学位論文として位置づけている。そして課程修了の学位として修士（スポーツウエルネス学）を取得することができる。</p> <p>&lt;修士論文&gt; スポーツまたは健康に関するテーマに則した調査、実験結果の統計学的、科学的検討が行われていること、あるいは文献検討を通じた論理的妥当性と内容の妥当性、ならびに理論的創造性があること。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研究目的の設定</li> <li>2) 先行研究の検討と本研究の課題と方法</li> <li>3) 結果と考察、あるいは研究の内容</li> <li>4) 結論および今後の課題</li> </ol> <p>&lt;特定課題研究報告書&gt; スポーツまたは健康に関する特定の課題について、実践的技法を用いて課題解決や目標達成に取組み、その経緯と成果について妥当な考察がなされ、実証的創造性が認められること。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研究課題の設定とねらい</li> <li>2) 課題解決へのプロジェクト計画</li> <li>3) プロジェクトの展開と評価</li> <li>4) プロジェクトの成果と考察</li> </ol>		

<b>学位論文に関する評価の基準</b>	<p>(学位論文の評価基準)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高度な課題解決力向上を支える研究力とマネジメント力</li> <li>2. 俯瞰的な視野と柔軟な思考力</li> <li>3. 様々な領域の人材とチームを組んで課題を解決する能力</li> <li>4. 高度なプロジェクト推進力と解決力</li> <li>5. 最先端の研究技法を駆使して、グローバルなレベルで問題解決できる能力</li> </ol> <p>の5つの評価項目について妥当と認められること、選択した学位論文それぞれの目的・特徴に合致していることに加えて、スポーツヘルスプロモーション分野、スポーツウエルネスマネジメント分野における社会的、あるいは学術的意義の高い論文であると判断され、かつ最終試験によって合格と判定されること。</p> <p>審査委員の体制：学位論文の審査等を実施するために設置する学位論文審査委員会は、主査1名と2名以上の副査で構成する。</p> <p>審査方法及び項目等：学位論文、最終試験（発表及び口頭試問）により、総合的に判断する。</p>
----------------------	--

### 教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

本学位プログラムはスポーツヘルスプロモーション分野とスポーツウエルネスマネジメント分野（協働大学院方式）からなる。

スポーツならびにヘルス領域の基礎的、実践的な知識や技能を身に付けるとともに、スポーツとヘルスの相乗的な推進効果を生み出す理念と方法を理解し、そのための基本政策や戦略を企画・立案・分析する能力、必要な資源を査定システム化する能力、高度なシステムを適切にマネジメントする能力、合理的なプログラムを開発する能力を身に付けるためのカリキュラムを設計している。更には、科学的探究心、論理的思考力、俯瞰力を身に付け、科学的、論理的、客観的かつ本質な課題解決法の構築力や開発力の向上を目指した科目、産官学の連携から高度な実践的能力を獲得し、地域・社会の発展や課題解決に貢献できるマネジメント能力を身に付けるための科目を通して、スポーツウエルネスに関連する高度職業人が育成できる教育課程を編成している。

<b>教育課程の編成方針</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 知の活用力：スポーツウエルネス学概論、スポーツウエルネス学方法論、スポーツヘルスプロモーション研究方法論Ⅰ、スポーツシステムマネジメント論特講、トップスポーツ論特講などで修得する。</li> <li>- マネジメント能力：スポーツシステムマネジメント論特講、スポーツシステムマネジメント論演習Ⅰ、スポーツシステムマネジメント論演習Ⅱなどで修得する。</li> <li>- コミュニケーション能力：スポーツヘルスプロモーション研究方法論Ⅰ・Ⅱ、スポーツ・プロモーション研究方法論Ⅳ、スポーツシステムマネジメント論演習Ⅰ、スポーツシステムマネジメント論演習Ⅱ、スポーツシステムマネジメント論実習、学会発表などで修得する。</li> <li>- チームワーク力：スポーツウエルネス学方法論、スポーツシステムマネジメント論演習Ⅰ、スポーツシステムマネジメント論演習Ⅱ、スポーツシステムマネジメント論実習などで修得する。</li> <li>- 国際性：スポーツシステムマネジメント論特講、トップスポーツ論特講、健康開発プログラム</li> <li>- 論特講、コミュニティメンタルヘルス論特講などで修得する。</li> </ul>
------------------	---

<p><b>教育課程の編成方針</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 研究力：スポーツヘルスプロモーション研究方法論 I・II・IV、スポーツシステムマネジメント論特講、スポーツシステムマネジメント論演習 1、2 などで修得する。</li> <li>- 専門知識：スポーツウエルネス学概論、スポーツウエルネス学方法論、スポーツシステムマネジメント論特講、スポーツシステムマネジメント論演習 1、2、課題解決型実習 I・II、エビデンスベースのハイパフォーマンス支援策、スポーツウエルネスにおける生成 AI 活用法などで修得する。</li> <li>- 倫理観：スポーツウエルネス学概論、スポーツウエルネス学方法論、スポーツシステムマネジメント論特講、スポーツシステムマネジメント論演習 1、2、倫理講習会受講、APRIN など倫理関連の e-learning 受講などで修得する。</li> </ul> <p>なお、学生の専攻分野を軸として、関連する分野の基礎的素養や広い視野、汎用的知識・能力の涵養に資するよう、学術院共通専門基盤科目から 1 単位を履修することを推奨する。</p>
<p><b>学修の方法 特色的な教育</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 1 年次に、専門の基礎能力を修得するために、春学期に必修科目として、概論（2 単位）と方法論（1 単位）が設定されている。また、研究力の向上を目的として、2 年次では、研究方法論 I および II（計 2 単位、必修）が設定されている</li> <li>- スポーツヘルスプロモーション分野では、1-2 年次に、関連分野の基礎能力、プロモーション実践基礎能力、プレゼンテーション・コミュニケーション能力を修得するために、スポーツプロモーション領域、またはヘルスプロモーション領域のどちらかを選択し、選択した所属領域専門科目群（選択）の特講、演習、実習及び他領域の特講を中心に計 11 単位以上を履修する。また、スポーツヘルスプロモーション分野の専門科目群（関連）から 6 単位以上、研究主題に関連するスポーツウエルネスマネジメント分野の専門科目群（選択）から 2 単位以上を履修する。</li> <li>- スポーツウエルネスマネジメント分野では、スポーツヘルスプロモーション分野の専門科目群、または他の学位プログラムの授業科目から 6 単位以上を履修する。また、スポーツウエルネスマネジメント分野の専門科目群（必修）を 22 単位履修する。更にウエルネスマネジメント分野の専門科目群（選択）から 2 単位以上を履修する。</li> <li>- 以上計 30 単位以上取得する。</li> </ul>

**入学受入れの方針 / Admission Policy**

<p><b>求める人材</b></p>	<p>体育・スポーツの推進並びに心身の健康増進にかかわる実務実績と基礎知識を有し、これを基盤としたリカレント教育を通して研究能力を高めようとする意欲や関心を持ち、高度専門職業人として各種関連領域で活躍できる人材、企画・新規事業開発力・実践力を身に付けたい企業や団体等のマネジメント人材を求める。</p>
<p><b>入学者選抜方針</b></p>	<p>推薦入試（スポーツヘルスプロモーション分野及びスポーツウエルネスマネジメント分野）と一般入試（スポーツヘルスプロモーション分野のみ）を実施。配点は、推薦入試（スポーツヘルスプロモーション分野及びスポーツウエルネスマネジメント分野）は書類審査 50 点、口述試験 50 点、一般入試（スポーツヘルスプロモーション分野のみ）は、書類審査 30 点、専門科目試験 30 点、口述試験 40 点でそれぞれ合計得点により選抜する。</p>

### 学修支援体制 / Learning Support Framework

<p><b>学修支援</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 情報処理演習室の設備充実と利用環境の改善（PC・ソフトウェアの最新化、快適な学習空間の提供）</li> <li>- 資料室における有料図書・学術雑誌の購入・更新の強化（学修や研究に必要な情報へのアクセス向上）</li> <li>- 外部研究所や企業との連携強化による学修・研究機会の拡大（共同研究・研究会の実施）</li> </ul>
<p><b>学生同士の交流機会</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- スポーツウエルネス学概論でのグループワークプロジェクトの実施</li> <li>- 中間発表会での全員参加による意見交換</li> <li>- チームワークを重視した演習・実習科目により、協働的学習を推進</li> </ul>
<p><b>教員との交流機会</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 各演習科目での少人数制演習による直接的な指導。</li> <li>- 修士論文指導や中間発表会での全専任教員からのフィードバック。</li> <li>- 学位論文審査委員会による口頭試問を通じた双方向的な学問的交流。</li> </ul>

### 教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミSSION・ポリシーの三つの方針に基づき、一貫性と体系性のある教育課程を設計している。
- 学位論文評価の基準を明確化し、透明性と公平性の高い評価を実施することで、教育成果の可視化と質保証を図っている。
- 学修成果について、定期的な達成度評価を実施し、その結果を教育課程の妥当性や指導方法の適切性の検証に活用している。
- 教員による個別指導体制とピア評価を組み合わせ、多面的な視点から教育の質を担保している。
- 外部機関との連携を活用し、教育内容の社会的妥当性を定期的に検証している。
- カリキュラム委員会等の組織を設置し、教育活動全体に対する点検と改善を継続的に行うことで、教育の質を保証し、学位プログラムの目的達成に向けた体制を強化している。
- 定期的なカリキュラム見直しを行い、学生および教員からのフィードバックを反映させることで、継続的な改善サイクルを構築している。
- 倫理教育（APRIN などの e-learning や倫理講習会）の受講を必須とし、研究および教育活動の健全性を確保している。
- 年1回の学生アンケートを実施し、その結果を踏まえて学生懇談会を開催するとともに、改善案を提示して教育環境の向上を図っている。